

## 3月18日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●ドイツは米になお「占領」、自主的に行動できず＝プーチン大統領(2023年3月14日)

[14日 ロイター] - ロシアのプーチン大統領は、昨年9月に発生したロシアと欧州を結ぶ天然ガスの海底パイプライン「ノルドストリーム」爆破に対するドイツの対応は第二次世界大戦の降伏から数十年経った今でもドイツがなお米国に「占領」され、自主的に行動できないことを示していると述べた。

ノルドストリーム爆発の調査を巡り、ドイツを含む西側諸国は慎重に対応し、意図的な犯行としながらも、その責任の所在に関しては明言していない。

ロシアの通信社によると、プーチン大統領は国営テレビで「第二次大戦後、ドイツは完全な主権国家ではなかったと欧州の政治家が自ら公言していることが問題だ」と指摘。「ソ連は一時、軍を撤退させ、占領に等しい状態を終わらせた。しかし周知の通り、米国はそうではない。米国はドイツを引き続き占領している」と述べた。

これに先立ち、プーチン大統領は14日、ノルドストリームの爆破は「国家レベル」で行われたとの見方を示した。



### ●米調査報道記者ハーシュ氏、米国がウクライナ紛争に直接介入する条件を挙げる(2023年3月15日)

ピューリッツァー賞受賞歴のある米調査報道記者のシーモア・ハーシュ氏は、米国の非営利団体「共和国のための委員会」のイベントで演説し、米国はウクライナの戦闘行為に直接介入する案を検討しているとの見方を示した。

ハーシュ氏は匿名の情報筋を引用し、ウクライナが敗北する見通しが明らかになった場合、そのように事態が進展する可能性があると指摘した。なお、同氏によると、米国は架空の「ロシアに対するその攻撃作戦における北大西洋条約機構(NATO)支援」でカモフラージュするという。一方、ハーシュ氏は

「しかし、それは我われ(米国)がロシアと戦うということだ」と指摘した。

この文脈においてハーシュ氏は、ソ連軍がドイツ軍を撃破したスターリングラード攻防戦について言及し、米国はロシアとの「喧嘩に割り込む」準備は整っていないとの見方を示した。また同氏によると、ロシアはウクライナにおける特殊軍事作戦で自国の主力をまだ投入してもいないのに、米国はウクライナで起こっていることについて自分自身を欺いている。

ハーシュ氏は、自身が考える米国の計画に基づいて米露直接衝突の脅威について論じ、欧州に派遣されている米陸軍の第 82 空挺師団および第 101 空挺師団の編成について言及した。

ハーシュ氏は、調査報道を専門としている。同氏は 2 月初旬、ロシアとドイツを結ぶガスパイプライン「ノルドストリーム」テロ事件に米国が関与していたことを証明する独立した調査結果を発表した。



### ●西側はウクライナ支援に疲れた＝エストニア首相(2023年3月15日)

エストニアのカヤ・カッラス首相は CNN テレビの取材に応じた中で、同盟国の間ではウクライナ支援に対する疲れが生じているとし、これに懸念を表明した。

カッラス首相は取材の中で、「私はこれに懸念を抱いている……様々な同盟国のメディアを読んでいる……疲れが出ている」と発言した。

先にモスクワ国立大学のアンドレイ・シドロフ教授はスプートニク通信の取材に応じた中で、ジョー・バイデン大統領とオラフ・ショルツ首相は先の会談でウクライナ支援が困難になりつつあることから、危機の「回収」に向けた方針を議論したとの見通しを示した。交渉の中では西側のエリートの間で起こった支援疲れに加え、何かしらの形でこの紛争を停滞、あるいは凍結状態に移行させたいという思惑が検討されたという。これにより西側は「息継ぎ」を行い、社会と経済を建て直し、長期的紛争に向けた用意を整えようとしていると評価した。

2023 年 1 月にポーランドのマテウシュ・モラヴェツキ首相は、西側のウクライナ疲れを認めただうえで、ポーランドとしてはこのテーマをアクティブにしていきたいと表明していた。



## ●「ノルド・ストリーム」に未来はある＝プーチン大統領(2023年3月15日)

仮に自国の利益を保護する意識が西側のパートナーに蘇れば、「ノルド・ストリーム」に未来はあり得る。ロシアのウラジーミル・プーチン大統領が表明した。

プーチン大統領は「ロシア 24」のテレビ番組に出演した中で、昨年に爆破された自国の天然ガスパイプライン「ノルド・ストリーム」のポテンシャルについて言及した。

「世界の実践において、こうした出来事のあとにそうしたシステムを修復した例はない。しかし、論理的に言って全ては可能である。これは単に時間とある程度の資金、そしていくつかの新たな技術を必要とするだけだ」

ジャーナリストのパーヴェル・ザルービン氏がこのプロジェクトに未来はあるかと質問したところ、これを肯定した。その上で、「もちろん私はあると思う、我々の欧州のパートナーに関心があれば、仮に彼らの間で自国の利益を保護する意識が蘇れば、もちろんその未来は存在する」と回答した。また、プーチン大統領は今回のテロ事件について複数の爆弾が仕掛けられたと指摘、いくつかの爆弾は爆破していないとした。ただし、不発に終わった理由は明らかではないとコメント。

先にニューヨーク・タイムズ紙が親ウクライナ派のグループによる犯行だったと報道した点については、「完全なでたらめ」と評価した。プーチン大統領によると、これほどの破壊行為を海底で行うには高度な技術を持つ国家の全面的支援が不可欠だという。

ニューヨーク・タイムズ紙はこれより前、新しい調査情報として、「ノルドストリーム」テロ工作の背後には、ある親ウクライナ集団が絡んでいる可能性がある」と報じた。また独紙「ツァイト(Zeit)」によると、ドイツの捜査当局は「ノルドストリーム」爆破に関与した船舶を特定したという。犯罪の足跡がウクライナ方面に向いている、と同紙は指摘している。

一方、ロシア大統領のドミトリー・ペスコフ報道官は、西側メディアによる「ノルドストリーム」破壊工作の新たな情報の公開は、関心を逸らせようとするミスリーディングであるとの考えを示した。



## ●米軍無人機「リーパー」が黒海で墜落と米発表 露国防省もコメント(2023年3月15日)

アメリカ欧州軍(EUCOM)は 14 日、ロシア軍の戦闘機「Su-27」と米軍の無人機「MQ-9(リーパー)」が黒海で「衝突」したと発表した。無人機はこのインシデントのあと、黒海の公海上に墜落したという。一方、ロシア国防省もコメントを発表。攻撃や衝突はなかったとしている。

米側は EUCOM のほか、ホワイトハウスもこのインシデントに言及している。

一方、ロシア国防省の発表によると、ロシア軍は 14 日朝、クリミア半島近くのロシア領空に近づく

米軍の無人機「MQ-9」を発見。「MQ-9」は通信機をオフにしたまま飛行していた。発見後、ロシア軍機はスクランブル発進した。

その後、「MQ-9」は荒々しい操縦の結果、制御を失い、海面に衝突した。ロシアの戦闘機はドローンに対して攻撃兵器を使用しておらず、接触もなかったとしている。



## ●ロシア、「ノルドストリーム」の不発弾調査をデンマークに提案＝プーチン大統領(2023年3月15日)

2022年9月に起こったロシアからドイツ・欧州に天然ガスを送る海底パイプライン「ノルドストリーム」の爆破テロをめぐり、設置されたものの爆発していない爆弾の有無を調査するようロシアがデンマーク政府に対して提案した。ウラジーミル・プーチン大統領が、14日に放送された露国営放送のインタビューのなかで明かした。

プーチン大統領は、ロシア国営エネルギー企業「ガспロム」の専門家が「ノルドストリーム」の爆発現場から約30キロ離れた地点で棒状のものを発見したと明かし、これが起爆の際に使われる信号を受け取るアンテナである可能性があるとして指摘。さらに、周辺に設置されたもののまだ爆発していない爆弾がある危険性を考慮し、次のように述べている。

「ロシアはデンマークに対し、独立または二国共同、国際グループを結成するなどして、調査を行う許可を受けられるよう望んでいる。爆発していない爆弾があるなら解除しなくてはならない。だが、デンマーク側からの反応は、『デンマークが自ら検討しなくてはならず、もし可能になったら返答を出す』という漠然としたものだった」



## ●ウクライナの「嫌露」プロパガンダ 露人権委員が国連安保理で指摘(2023年3月15日)

ロシア大統領府付属人権委員会の委員で、スプートニクの所属する露メディアグループ「ロシア・セヴオードニャ」で執行役員を務めるキリル・ビシンスキー氏は 14 日、国連の安全保障理事会で開かれた「嫌ロシア感情」に関する会合に参加した。そのなかでビシンスキー氏は、ウクライナから発信されたロシアやロシア人に対する憎悪表現を例示し、問題点を指摘した。

安保理会合にリモート参加したビシンスキー氏は昨年、ウクライナのテレビ番組で「嫌ロシア感情」を煽る表現が多々見られたと指摘。ウクライナテレビの人気司会者、ファフルディン・シャラフマル氏が「ロシア人の家族や子どもを殲滅し、彼らを懲らしめよう」と生放送で呼びかけたり、医師で社会活動家のゲンナジー・ドルゼンコ氏がロシア人捕虜の去勢を呼び掛け、「彼らは人じゃなくてゴキブリだ」と発言したことなどを例に挙げた。

加えてビシンスキー氏は、ウクライナの民族衣装を着た女性が血みどろの収穫というフレーズとともにロシア軍兵士の喉を掻き切る様子を描いた公共広告にも言及した。

「こうした声明は今日、実行されている。(編注:ウクライナ軍による)ロシア人捕虜の銃殺や捕虜への非人道的な扱いのほか、ドンバスのロシア語話者の民間人を攻撃していることに現れている」

これまでにロシアのドミトリー・ポリャンスキー国連次席大使は、ウクライナ紛争の解決を妨げている要因の一つである、ウクライナや西側諸国で渦巻く「嫌ロシア感情」の問題に関する会合を開くよう、国連安保理に要求していた。



## ●露外務省、「ノルドストリーム」爆破事件の調査委設置に関する決議採択を国連安保理に求める 爆発現場近くで「物体」が発見されたのを受けて(2023年3月15日)

ロシア外務省のザハロワ報道官は、国連安全保障理事会はロシアとドイツを結ぶガスパイプライン「ノルドストリーム(ノードストリーム)」爆破事件の調査を行う独立委員会の設置に関する決議を迅速に採択しなければならないと表明した。同省のサイトに 13 日、談話が掲載された。

ロシア外務省によると、爆発現場から 30 キロ離れたパイプラインの支線の 1 つを点検していた際に、「ノルドストリーム」の構造の一部ではなく、爆発装置の構成要素の可能性のある「物体」が見つかった。

談話では「前述した点検中に見つかった『発見』は、このようなことが今後起きないようにするため

に破壊工作のすべての状況を明らかにすることを目的とした国連事務総長によるしかるべき委員会の設置に関する決議を安全保障理事会が迅速に採択することが緊急に必要であることを今一度強調している」と述べられている。



### ●元ウクライナ大使、馬淵睦夫 2023 年第9回 バイデンのウクライナ訪問「彼は何故わざわざ列車で10時間かけてキエフ入りしたのか」(2023年3月6日)

※投稿者コメント:元ウクライナ大使でゼレンスキーよりウクライナの事を詳しく知っている馬淵さんが、バイデン大統領「仮」が何故電車でキエフに行ったかをととても理由分かりやすく解説してたので1時間の中のポイント載せます。

<https://twitter.com/i/status/1632692665417625600>



### ●タッカー・カールソンへの圧力(2023年3月15日)

アメリカのチャック・シューマーは FOX 社長ルパート・マードックに対しタッカー・カールソンの報道を止めさせるよう呼びかけている。

<https://twitter.com/i/status/1633449675918565377>



### ●米露国防相が電話協議 意思疎通の維持を確認 無人機墜落で(毎日新聞、2023年3月15日)

オースティン米国防長官は15日の記者会見で、ロシアのショイグ国防相と電話協議し、米軍の無人航空機とロシアの戦闘機の衝突について話し合ったことを明らかにした。オースティン氏は「事態がエスカレートしないか、衝突を真剣に受けとめている。両国で意思疎通を維持することが重要だ」と強調した。

衝突は黒海の公海上空で現地時間の14日朝に起きた。2機のロシア戦闘機が無人航空機に燃料を浴びせるなどの妨害行為を行い、うち1機が衝突した。損傷した無人航空機は墜落を余儀なくされた。

会見に同席した米軍制服組トップのミリー統合参謀本部議長は、衝突時の映像が残っていると説明した。衝突が「意図的だったかどうかは分からない」と指摘したが、妨害行為については「意図的であり非常に危険な行為だった」と批判した。

墜落した無人航空機は黒海の水深約1.5キロの場所に沈んだとみられ、回収は困難という。ミリー氏は「機密情報など重要なものは破壊されており、回収すべきものはあまりない」との見方を示した。

【ワシントン鈴木一生】



### ●タッカー・カールソン:政府が、税金を使って検閲を SNS 企業にやらせている(2023年3月15日)

<https://twitter.com/i/status/1634484395662000128>



### ●ロシア軍バフムト完全包囲狙う、多方面から攻撃＝ウクライナ陸軍司令官(2023年3月17日)

キーウ 17日 ロイター] - ウクライナのシルスキー陸軍司令官は17日、激しい戦闘が続いている東部ドネツク州の要衝バフムトについて、ロシア軍は完全包囲を狙い複数の方向からウクライナ軍の防衛線を突破しようとしていると述べた。

シルスキー司令官は「バフムトは今も対立の中心地になっており、戦闘は続いている」とし、「ロシア軍はあらゆる戦力を駆使して複数の方向から防衛線を突破し、バフムトを完全に包囲しようとしている」と述べた。



### ●ロシア、バフムトの 7 割支配主張 ウクライナ東部、戦況膠着(挙動通信、2023年3月17日)

【キーウ共同】ウクライナ東部ドネツク州の親口派「ドネツク人民共和国」の幹部は17日、激戦が続く要衝バフムトの6～7割をロシア軍が支配下に置いたと主張した。ロシア国営テレビが伝えた。バフム



トにはロシアの正規軍のほか、民間軍事会社ワグネルが戦闘員を投入。猛攻をかけたが、ウクライナ軍が防衛し、膠着が続いている。

英国防省は17日の分析で、バフムト周辺のロシア軍が戦闘力を消耗し、1月以降で最低水準の局地的な攻撃を展開していると指摘した。

ウクライナのゼレンスキー大統領は17日、最高司令官会議を開き、バフムトなどウクライナ東部の前線での部隊強化に向け協議したと発表した。

## ●米、中国の停戦案に「深い懸念」ロシア有利、部隊再編に利用(共同通信、2023年3月17日)

【ワシントン共同】米国家安全保障会議(NSC)のカービー戦略広報調整官は17日のオンライン記者会見で、中国の習近平国家主席とロシアのプーチン大統領との会談予定に関連し、中国がロシアを利する形でウクライナとの停戦を提案しているとして「深い懸念」を表明した。ロシアが停戦を利用し、部隊の立て直しを図る恐れがあると指摘した。

ロシアだけに有利な停戦が実現したとしても「永続的な和平にはつながらない」と批判し、習氏がプーチン氏だけでなくウクライナのゼレンスキー大統領と対話して双方の立場を理解する必要があると強調した。

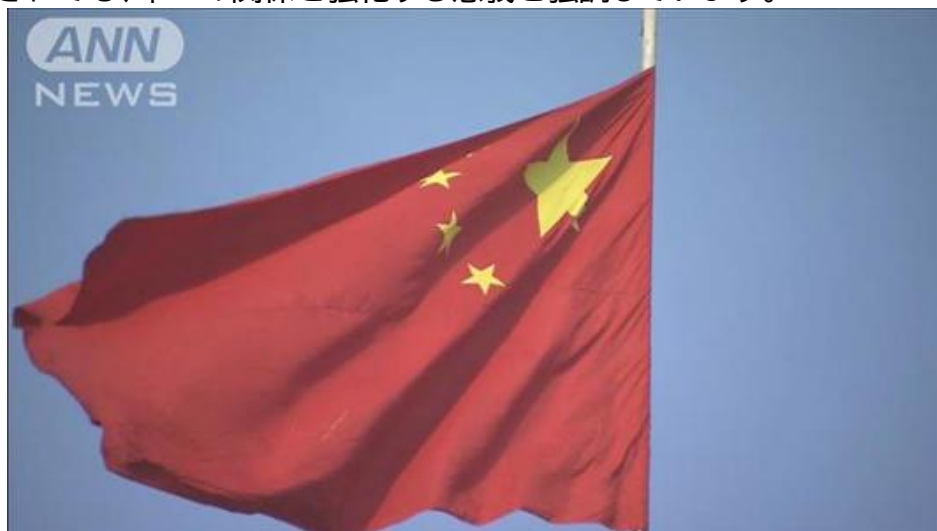
## ●習主席の訪口前に駐口大使「世界が動揺するほど中口関係はしっかり前に進むべきだ」(2023年3月18日)

20日から予定されている中国の習近平国家主席のロシア訪問に合わせて、中国の駐ロシア大使は「世界が動揺するほど中口関係はしっかり前に進むべきだ」と訪問の意義を強調しました。

中国の駐ロシア大使・張漢暉氏は17日、習氏が国家主席3選後の最初の訪問国としてロシアを選んだことは「習氏とプーチン氏の深い友情と中口関係重視の表れだ」と強調しました。

さらに経済については、ロシアでの人民元による決済の増加などを示し、2023年は目標の貿易額2000億ドルを達成すると予測しています。

また、「世界が動揺し不安になるほど、中口関係はしっかり前に進むべきだ」として、ウクライナ侵攻でロシアが非難されても、中口の関係を強化する意義を強調しています。



## ●米共和、ウクライナ支援巡り亀裂＝大統領有力候補が「反対」(2023年3月18日)

【ワシントン時事】ロシアの侵攻を受けるウクライナへの支援を巡り、米野党・共和党が割れている。「米国第一」を旗印に2024年大統領選での返り咲きを目指すトランプ前大統領らが、支援反対を明言。一方、もともと「反ロシア」の傾向が強い伝統的保守派は支援強化を訴え、党内の亀裂があらわになっている。

「ウクライナとロシアの『領土紛争』にこれ以上巻き込まれることは、米国の重要な国益でない」。トランプ氏と並んで「次期大統領」の呼び声が高いフロリダ州のデサンティス知事は13日、FOXテレビが主要候補を対象に行った調査にこう答えた。

デサンティス氏は立候補を表明していないが、主要メディアは発言を大きく取り上げた。同調査ではトランプ氏も、ロシアとの対決は「米国ではなく欧州の利益だ」と述べ、支援の必要性を否定した。

一方、大統領選に出馬を表明したハイリー元国連大使は、ロシアが勝利すれば中国やイランなど他の敵性国を「より攻撃的にする」として、ウクライナを全面支援する考えを示した。出馬を検討中とされるペンス前副大統領も「(侵攻を)止めなければ、プーチン(ロシア大統領)は北大西洋条約機構(NATO)まで突き進む」と語っている。

